

## 研究資料

### 蘆雪翁追薦展観画録

河野元昭

ここに東京都立日比谷図書館（加賀文庫）所蔵の『蘆雪翁追薦展観画録』（刊本）を校刊する。長澤蘆洲は、文化七年（一八一〇）三月二十七日、京都円山の也阿弥に於て義父蘆雪追薦の展覧会を主催した。何らかの事情により、十三回忌を一年繰り上げて行ったものかもしれない。その時の目録が、すなわち本小冊子であって、すでに森銑三氏が「谷文晁伝の研究」（日本美術協会報告第四六輯・森銑三著作集第三巻）に、相見香雨氏が「続蘆雪物語」（日本美術協会報告同号）において参考資料として挙げている。相見氏は「その時の目録『蘆雪翁追薦展観画録』といふ小冊は伝本稀なるもので、私は京都の故高橋正意の蔵本を山本臨乗翁が写したのから更に転写してゐたが、近年加賀文庫に一本を獲られたので、それで校正を加へることが出来た」と述べ、森氏もまた稀観本であることおよび加賀文庫（日比谷図書館）の所蔵を伝えている。『国書総目録』の所在に、加賀文庫と共に相見文庫を挙げるのは、相見氏自らが伝える写本を指すものかもしれない。

本目録は長澤蘆雪およびその画系の参考資料であることはもちろんであるが、京都を中心として、当時活躍していた画家の一覧表としても、利用価値は決して低くないと思われる。『美術研究』は先に明和五年版、安永四年版、天明二年版『平安人物志』<sup>(註1)</sup>、安永四年版、寛政二年版『浪華郷友録』<sup>(註2)</sup>を校刊した。これらに見られる名号および住所の併記が、本目録にはその性質上欠けており、京都在住以外の画家は単に「江戸」、「浪華」のような地方を示すだけの表

記に留まっていることは残念であるが、相見、森両氏も指摘することく、稀観本であることも考慮して校刊することにした。

長澤蘆雪については既に多くの調査報告、論考が提出され、特に最近はその特異な表出性を、円山派という流派の枠を越えて理解しようとする動きも加って、大きな関心を集めている。それに対し、義父蘆雪の跡を継いだ本画会の会主蘆洲のことはほとんど知られない。もっとも蘆雪画の個性が、画系的継承のなかに非常に消滅しやすい性格のものであったことを考慮するならば、これも当然かもしれない。私は未だ蘆洲の作品を実見したことがなく、「蘆舟」落款の蘆雪風群仙女図を見たことはあるが、これは蘆洲と別人であるらしい。<sup>(註3)</sup>『画乗要略』の「伝三家学」という記述から、蘆雪の筆墨技法を反復した画家を想像するしかないが、伝記に関しては『東洋美術大観』第六巻に比較的詳しく載っている。私は先日蘆雪、蘆洲の菩提寺、京都・回向院の神楽安広氏の御好意によって、墓碑、過去帳などを調査する機会を与えられた。『東洋美術大観』の記載を再確認しつつ、その結果を簡単に記しておく。

蘆洲の墓碑は蘆雪の墓碑の右側三ッ目にあり、正面に

松林院長蒼鶴翁蘆洲居士  
寿松院光蒼明室貞照大師

と刻されている。右側には「寿 弘化五申年二月十六日」「松 弘化四未年十月廿九日」、左側には「長澤氏」とあって、蘆洲は弘化四年（一八四七）十月二十九日歿したことが判明する。墓碑には享年がないが、過去帳に八十歳とあり、これによれば明和五年（一七六八）の生れとなる。文化十年（一八一三）、文政五年（一八二二）、同十三年、天保九年（一八三八）の『平安人物志』に載っており、これによって名を麟、号を吞江と称し、京都柳馬場四条北に居住していたことが判明する。ところで山陰香住の大乗寺は、応挙、蘆雪、呉春など円山四条派の障壁画が多く伝えられて、これらの展覧会場の如き観を呈する寺院として知られているが、ここに伝わる関係文書中に「円通閣柱礎図」<sup>(註4)</sup>があ

る。この図面は享和年間に大乘寺の密英上人によって書かれたもので、図面右上に障壁画を担当する予定になっていた三十名の画家を挙げてあるが、その中に蘆洲の名が見出せる。結局、この建物は実現されなかったのであるが、応挙、源琦、蘆雪なき後の円山派を担う画家の一人であったことが、これによって想像されよう。

挿図1 見返し、一オ

会場となった円山也阿弥は安養寺の六支坊の一つ。安養寺は正法寺（時宗）に属する寺院であり、江戸時代前期すでに精進料理を名物としていた。それが徐々に酒類なども出すようになり、明和のころには、酒楼、雅会の席のように変化してい

長澤蘆洲編 蘆雪翁追薦展観画録 日比谷図書館（加賀文庫）蔵  
挿図2 ハウ、九オ

った。その風光の明媚は秋里離島『都名所図会』巻之三にある次の文によって知られよう。

当山坊中の書院は昇らずして高樓に至り、清奇典麗いはん方なし。庭中には石を疊んで飛泉を催し、池を鑿りて舟をうかべ、緑樹芳草、四季に花絶えず、蹴鞠の履の音涼しく、中には多蔵庵（眼阿弥）の庭は相阿弥の作なり。多福庵（也阿弥）の書院の画は雪溪の筆なりとぞ。凡そ洛陽遊筵の地多かめれど、この地に勝る、はなし。

支坊はほとんど明治時代火災に逢い、也阿弥も遺っていない。（註5）

この展覧会に出品された作品は、目録末尾に記載があるように、全て豎三尺八寸、横一尺三寸の絹本掛幅で、その数一六二幅であった。今日の展覧会に相当する画会は、江戸時代においても珍しいことではなかったと推定されるが、それらは二つに大別することが出来る。一つは故人となった画家の業績を顕彰するため遺作を展示する場合で、代表例として抱一が光琳の百年忌を記念して主催したものである。『光琳百図』の抱一跋文によれば、同好者が光琳画を一幅ずつ持寄ったとあり、当然これらは一堂に掛けられて、希望者は鑑賞することが出来たのであろう。他の一つは当時の現代作家達が作品を出品して、その腕を競い合う場合で、代表例として皆川淇園が主催、寛政四年（一七九二）以後春秋二回ずつ円山で行われたものがある。

ここに紹介する『蘆雪翁追薦展観画録』は、岸駒、景文、南岳、徹山、文鳳、孝敬、在中、文晁、祖仙、呉春、応瑞、豊彦、訥言などを初めとして現代作家の新画ばかりの展観であったことを伝えるが、その目的から考えて、蘆雪の遺作も何点かは陳列されたものと思われる。前述した二つの性格を兼ね具えた画会であったのではなからうか。

目録最後の八画家は、会主蘆洲を含めて全て号に「蘆」字がつく。蘆雪の弟子であったと推定して誤りあるまい。しかも分布が播磨、金沢、但馬、若山（和歌山）と京都に限定されず、蘆雪の弟子達が地方でも活躍していた事実を窺い知ることが出来る。

註1 明和五年版「平安人物志」 第五三三號 安永四年版「平安人物志」 第五四四號

天明二年版「平安人物志」 第一三二號

2 安永四年版「浪華郷友録」 第六三三號 寛政二年版「浪華郷友録」 第六四四號

3 『東洋美術大観』には、回向院に「善岳松壽蘆舟信士五十回忌明治四十一年六月十七日山下貞以子建之」と刻す碑があると記される。これによれば明らかに蘆洲と蘆舟は別人となる。しか

しこの碑は、神楽氏に探して戴いたが見付けることが出来なかった。

4 拙稿「大乘寺円山派関係文書」国華九四五号

5 詳細は次を参照されたい。

拙稿「円山応挙筆 東山三絶図解説」国華九三六号

拙稿「円山応挙筆 東山三絶図補考」国華九六三号

蘆雪翁追薦

展観畫録

文化七年庚午三月廿七日於

圓山也阿彌 祭主 長澤蘆洲

展観畫録

梅花圖

讚

墨梅自讚

古松圖自讚

讚

墨竹圖

讚

垂絲櫻小禽圖

桃花源圖

秋山月夜圖

花鳥圖

冬原獨鶻圖

淡彩山水

陶弘景圖

藺相如圖

溪山樵夫圖

雪林凍獸圖

雪中挿菊圖

嵐山雨景

春山歸樵圖

龍女成佛圖

米元章圖

源語紅葉賀圖

人物圖

光明皇后浴人圖

波濤呼潮圖

豐干禪師像

中村則苗

黑田綾山

大原吞響

富田鳳聲

橘公順

天野黃洲

岡村鳳水

岸駒

河井五鳳

松村景文

土方寛柔

川島宣雅

奥文鳴

井上巒鳳

浪華

長山孔寅

堀内摘鮮

岸鶴洲

三僊圖

石榴小禽圖

賴政詠和歌圖

謝安遊東山圖

牡丹小禽圖

春夜山水圖

海棠金繡錦圖

米南宮拜石圖

秋雨墜葉圖

絳梅雀圖

群盲評古圖

春景山水

業平朝臣詠歌圖

山水圖

蛭子神像

資朝卿避雨圖

江戶

大西椿年

堀内和用

山田一鷗

土佐光孚

佐々木鳳儼

圓山應震

福智白瑛

下司其亭

參河

恩田石峯

速水春曉

丹後

逸見木許

渡邊南岳

別所東溪

下河邊玉鉉

龜岡規禮

吉村孝章

資朝卿避雨圖

韃靼人圖

脇坂南溟

富嶽圖

芳山

白雲圖

原在中

蘆花魚狗圖

周防 菅 翼龍

飛騎習射圖

江戸 佐藤東溪

朱買臣荷薪圖

佐々木大壽

松鶴圖

石田友汀

蔡女僊圖

河邨文鳳

群鷺圖

江戸 谷 文一

諸葛武侯像

本多爲谿

香王觀音圖

僧 月靜

蔬菜圖

南都 菊谷葛陂

朧月遊鹿圖

大月龍齋

海棠鸛雉圖

池田 葛野宜春

峨眉山月詩意

但馬 川本義兆

墨畫葡萄圖

江戸 谷 文晁

猛虎圖

雄栢旭嶺

月前櫻花圖

井上文鶴

巖頭獼猴圖

岡崎雪嶺

陶淵明圖

松川龍椿

旭日飛鴉圖

吉村孝敬

布袋和尚像

浪華 森 祖仙

牧馬圖

東 寅

候先生圖

浪華 森 周峯

福祿壽三星像

長門 竹內玉湖

扁栢猿猴圖

浪華 森 徹山

蓮華六郎圖

河邨琦鳳

馬圖

廣瀨順固

櫻花小禽圖

川口昇駒

梅花黃鸝圖

落合寅一

牽牛花小禽圖

合川珉和

三教圖

橫山五溪

西王母圖

山本探淵

春景山水

岩崎廣貫

八僊人圖

浪華 永井雪峯

杜鵑叫雨圖

南都 福井如容

鸞大師受淨教圖

神戶君秀

躑躅戲兔圖

姫路 筒井素文

櫻花鷓鴣圖

山口素約

山家月夕圖

小栗十洲

雲龍圖

廣渡巖斐

春禽啼花圖

廣島 藤井葆光

淡彩山水

南都 土岐濟美

元德秀乳遺孤圖

山口正鄰

關帝像

柴山橘亭

海棠山鵲圖

南都 中川華岳

稻梁麻雀圖

森 素雪

雨中荷花圖

浪華 松本觀山

古松圖

吉村孝文

墨竹

南都 長谷玉圃

鐘馗挈鬼圖

井河來章

月季花檉鳥圖

出石 永屋陽洲

安良日祭圖

矢野夜潮

墨畫風竹

岩井竹巢

山水圖

僧 月亭

漁樂圖

吉村蘭洲

寒山拾德圖

紀 竹堂

關雲長像

村井雪松

淡彩山水

僧 月峰

花鳥圖  
浪華 森 雄仙  
千代能圖  
原 在明

清流游龜圖

圓山應榮

著色花鳥  
狩野永傳

春卉小禽圖  
姫路 榎澤五石

群鹿圖

木下應受

墨梅圖  
僧 哦松

醉李白圖  
木村蘭汀

墨竹

山脇廣成

乙女高砂圖  
今井應祥

風竹倚石圖  
淡海 僧 玉潏

竹深荷淨圖

村上東洲

老子像  
世繼希僊

菊花圖  
山本菊世女

著色花鳥

浪華 五十川維德

王照君像  
尾道 平田豐女

東方朔圖  
八田公澄

紫藤矮鷄圖

圓山應瑞

子規圖  
武田希侯

墨畫雲龍圖  
山跡鶴嶺

月色清遠圖

源 章

美人圖  
西村士禮

麻姑採藥圖  
紫田義董

瀑布圖

西村楠亭

速疾鬼圖  
佐々木朗耀

淡彩山水  
鳥田元直

漢明帝愛諸王圖

豐前 片山九阜

人物圖  
雪中狗子圖  
伏見 加藤蘆角

谿山春望圖  
僧 自淨

秋景山水圖

中川有國

王右軍像  
東 洋

盛夏溪山圖

黑田西塘

黃長春白頭翁圖  
播磨 河野蘆笛

叔敖陰德圖  
伊黑東郊

人物圖

橫山華山

春野花鳥圖  
金澤 竹村蘆湖

荷花圖  
吳 春

蝦蟇鐵拐雕像柱聯

田中利孝

寒菊鸞鷟圖  
但馬 嵯峨山蘆鶴

月下雙鳧圖  
桂 五鳳

桃花牧牛圖

岡本豐彦

飲中八仙圖  
若山 高村蘆原

鴟鵂圖  
石山 僧 九峯

劉越圖

上田桃嶺

菜花蛺蝶圖  
松田蘆山

孟岐拭笏圖  
余田如水

淡彩山水

伏水

牡丹華翁像  
會主 長澤蘆洲

山水圖  
邨田 俊

織女圖

佐伯月洲

進藤樸亭

春草狗子圖  
大倉善景

秋海棠小禽圖

淀

右每幀絹地豎三尺八寸橫幅

雙鶴圖  
岸 卓堂

山水圖

松本曉園

一尺三寸總計一百六十二幀隨

雲龍圖  
高田 僧 普選

梅花連雀圖

田中訥言

所得後先錄之不必拘次第